

協議会ニュース

10号

愛知県自然観察指導員連絡協議会

59.11

{考えてみよう}

・うぐいす (浅沼秀夫) 1

◎他府県の自然観察指導員連絡会の状況 2

◎環境を知らせる生物 --- 3 「オオバコ」 4

{支部だより}

・フィールドを継続して観察しよう (尾張支部) 5

{会員広場}

・花をもとめて (三ッ石 清) 7

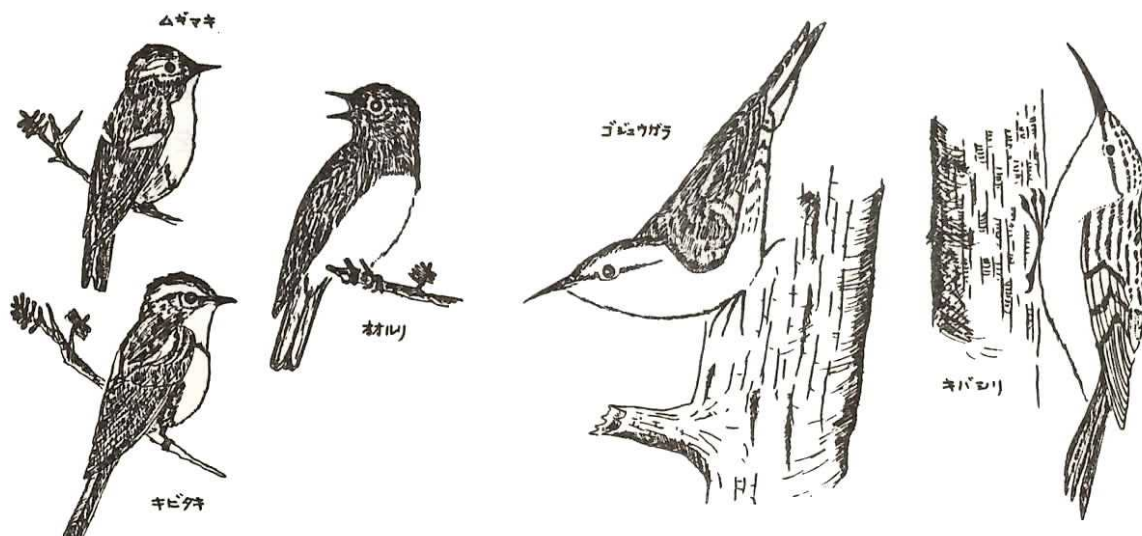
・鞍ヶ池公園での合宿と六所山自然観察会 (朱雀英八郎) .. 8

◎なかまたち --- 2 「ミノムシのなかま」 10

◎刊行物案内 ◎会員移動 3

◎お知らせ 9

◎行事案内 11



~~~~~{ 考えてみよう }~~~~~

「 う ぐ い す 」

浅沼秀夫（尾張旭市）

枕の草子の第三十八段「鳥は」の項に次のような文がある。

「うぐいすは、詩（ふみ）などにもめでたきものにつくり、声よりはじめて（声をはじめとして）、さまかたちも、さばかりあてにうつくしきほどよりは（あれほど上品で美しいくせに）、九重（内裏）の内に鳴かぬぞ、いとわろき。人の「さなむある（そうなんですよ）」といひしを、「さしもあらじ（それほどでもあるまい）」と思ひしに、十年ばかりさぶらひて（宮中にお仕えして）ききしに、まことに、さらに（全然）音せざりき。さるは（そうなんです）。竹近き紅梅も、いとよく通ひぬべきたよりなりかし（実によく通って来てもよいようないい場所なんですよ）。まかりでて（内裏から退出して）きけば、あやしき家の（賤しい民家の）、見どころもなき梅の木などには、かしがましきまでぞ鳴く。……」

最近、ふとしたことからこの文章を知り、およそ千年も前、牛馬や谷川にある小さな水車のパワーぐらいしか利用できなかった時代の彼女の嘆きが、石油・電気・ブルドーザーの時代である現代にも共通していることにびっくりした。

その嘆きとは、ウグイスは手のゆきとどいた庭園では鳴かない（すめない）ということであった。しかし、当時は、ちょっと外へでれば、うるさいほど鳴いていたようである。

現代の物質文明は、数百人分ともいわれるパワーを使い、そのうえ人口も当時と比較にならぬほど増えている。枕の草子の時代の数千倍のパワーで、しかもその時代よりも退化したかもしれない美意識をもって、庭園造り（開発）を続ければ、遠からず日本列島は総庭園化して、ウグイスの鳴かない「静かな春」いや「雑音の春」となろう。

ウグイスの鳴くような庭園（公園）造り、それは現代の急務であると思う。

## 他府県の自然観察指導員連絡会の状況

(事務局)

全国の自然観察指導員の数は約4500人となり、現在32都道府県に指導員の連絡会が設置されています。それらの活動は県によってかなり違うようですが、その一部を機関誌からみてみました。

### ★滋賀県（滋賀県自然観察指導者連絡会）会員150名

59年 8月19日に県下一斉自然観察会が行われました。滋賀県の7カ所で実施され、参加者合計201名、指導者40名でした。統一テーマとして「水」が定められ、場所の特徴に応じて、魚の習性と漁法、人工河川、水生昆虫、水質と浄化、湖岸のゴミ、水辺の植物などが取り上げられました。本県と同様に、参加者数が少ないのが悩みであるとありました。この他、県主催の観察会への指導者派遣等、多くの実績を有しています。

また、滋賀県で自然観察指導員全国大会が計画されており、その準備が進められています。期日は、60年 8月17～19日（19日は希望者のみ）で、大会テーマは、「今なぜ自然観察会か？〔調和の21世紀へ〕」となっています。大会の中で、実際に自然観察会を行う計画もあるようです。

### ★静岡県（富士箱根伊豆自然観察指導員連絡会）会員57名

地区ごとに分れ、自然観察会、研究会、指導員派遣等活発な活動がなされています。その一部を紹介しますと、4月……柿田川自然観察会（80名）富士宮地区講演会（富士宮の植物）、緑の国勢調査研究会、5月……下田ふるさと教室（畑の開墾）、富士宮自然観察会（植物分布図作成）、狩野川の植物観察会（沼津市民協主催）、6月……シンポジウム「国立公園を考える」（42名）環境問題連絡協議会（文化財・自然環境の保護について、各種自然保護団体が出席？）

### ★神奈川県（神奈川県自然観察指導員連絡会）

この会報は、月/回の発行で、既に37号を出しており、各県で最も多いと思われます。会報から、会の具体的な活動はよくわからないが、神奈川県には県立自然保護センターや各地の博物館、国立公園事務所など多くの施設があり、自然に関する会も多いことから、それらと協調していろいろな活動がなされているのが伺えます。



★熊本県（自然観察指導員熊本県連絡会）

ここも地区ごとに分れて活動しています。会報の活動報告から拾うと、  
（59年） 8月 5日「天草・海 of 自然観察会」参加50名、海浜の生物・展望  
船での観察、 8月 5日研修会「阿蘇の自然観察会」参加14名、講演とスラ  
イド・野外観察（開発と植物）、 8月19日研修会「佐敷川の底生生物」参  
加 9名、川の観察と動物の同定、 9月 9日自然観察会（連絡会、環境庁共  
催）参加50名、川の生物・水質について。

★京都府（自然観察指導員京都連絡会）

出来てから / 年位の新しい連絡会で、「森の新聞」という名の会報が2  
号出されています。 8月に2回京都府主催の自然観察会があり、連絡会か  
ら指導員を派遣しています。（参加者は、それぞれ50名位） 観察会の反  
省点として、パターン化した説明にならぬこと、作業等を取り入れて参加  
者が主体となる場面をつくること、自然の中の出来事を大切にすること等  
が会報にまとめられていました。

★北海道（北海道自然観察指導員連絡協議会）会員70名余

会報は2号まで出ていますが、 7月時点では、厳密には設立準備段階の  
ようです。 8月に行われる指導員大会が創立総会を兼ねるとありました。  
広い地域だけに運営が大変の様です。各地域ごとに指導員の集りを作って  
いく方針とありました。

---

〔刊行物案内〕

¥4,500

◎「愛知の動物」著者：佐藤正孝・安藤尚始め23名 B5版 P.325

愛知県郷土資料刊行会発行（052-263-0791）主要動物の説明と目録

◎「葦毛湿原の植物」（四季の観光案内）B6版 P.121 ¥1,500

豊橋自然歩道推進協議会編・豊橋文化協会発行 カラー写真集

---

〔会員移動〕

◎加入 ・磯辺亮一（知多支部）武豊町字多賀 3-18 会社員 No.3788

・松田俊幸（尾張・名古屋西）甚目寺町甚目寺字稲荷 28 No. ?

・田倉裕子（名古屋東支部）春日井市上条町 3-76-2

◎脱退 ・河井文雄（豊山町） ・大村政明（名古屋市）

「オ オ バ コ」 - - - - 踏みつけ群落の代表選手

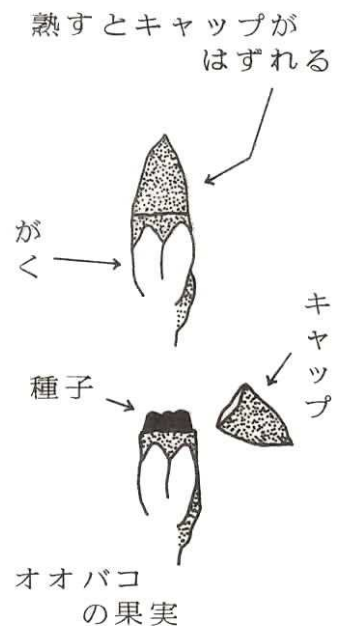
標高2000mの長野県美ヶ原高原の頂上広場、標高1000mの稲武町面ノ木峠の遊歩道周辺、そして名古屋城内の歩道沿の全てに共通する植物は何か？ 模範回答は、オオバコ科のオオバコ。北半球に広く分布する、踏みつけ群落の代表選手である。人や自動車の通る所に必ず出現する、というより人や車に頻繁に踏みつけられる所にしか生きられない人間生活に密着した植物で、平地でも高地でも、上層木が茂っているような天然林には決して姿を見せない。鳥でいえばスズメ、ほ乳類ではドブネズミ、昆虫でいえばクロゴキブリに匹敵する程、人間との関係が深い。

人間や自動車が頻繁に通る所では、背の高い植物は生育できないため、オオバコの地に伏したロゼット葉は有利である。当然、常に傷つけられるため、再生力も極めて強い。直射日光及び乾燥にも耐えることができる。

また、オオバコの種子はぬれると粘着力を示し、足に付着して散布される。更に、花期が 4 月～

9月と長期にわたり、しかも花は穂の下部のものから順にゆっくり開き、一時には開花しないという特性も持っている。踏みつけられるという、一般の植物にとっては劣悪な環境で生きられる術を全て備えた植物ということができる。これらは、踏みつけ群落を構成する植物の必須条件であり、イネ科スズメノカタビラ、オヒシバ、イグサ科クサイ、ナデシコ科ツメクサが該当し、いずれも世界的広域分布種である。

人類の繁栄と共に、極く最近勢力を広げた植物といえるだろう。



ところが、これらの種類が本当に強い植物かという点、そうでもない。もし人間の影響力が皆無となったらどうなるだろう。ロゼット葉が逆に災いし、背の高い他の植物に日光をさえぎられ、わずか半年で消滅してしまうことが知られている。人間の手の加わっていない天然林では、極めて無力な植物であるということができる。

このように、オオバコをはじめとする踏みつけ群落の存在は、即人類による環境変化が進められている証拠ということができよう。フィールドへ出たら、目立たないオオバコのような植物の存在にも注意してみよう。

〔北岡明彦〕

~~~~~{ 支部だより }~~~~~

フィールドを継続して観察しよう

尾張支部

それは、森の中から、ノ本のリンボクを発見することから始まりました。地上20cm、全部で40枚程度しか葉をつけていない幼木にふと眼をとめて、「なんだろう？」とつぶやき、ヒイラギかなという声を聞きながら、あー、これは若いうちはギザギザの葉をしています、大きくなるとトゲなんぞなくなってしまうのですよ。

メジロが松の実をついばみ、ヒヨドリがカエデの芽をついばんでいる頃、ヒサカキの小枝がするどくおられ、細かい葉片が落ちていました。よく見ると、ウサギの足あとがありました。雪の斜面を登っていくと、テン、ウサギ、キツネ、イタチ、イヌ、タヌキの足あとが見られました。

まだ、芽のかたい枝のあちこちに、ウスタビガやいろいろなミノムシ、カマキリの卵など見ました。ノエンドウに、カラスとスズメがあり、中間のカスマグサというのもあると知り、シービービーと興じたりしました。

ウリカエデ、イロハモミジ、アオキ、ヤブツバキ、ヒサカキ、ナガバノモミジイチゴ、コバノミツバツツジ、アセビ、ヒカゲツツジ、カクミノスノキ、シキミ、サルトリイバラ、ネズ、オオバヤシャブシ、キツネヤナギ、イヌコリヤナギ、シデコブシ、ガマズミ、コバノガマズミの花を見ました。草の花もたくさんありました。傍らの石垣で、ヤマカガシが活動を始めてました。

ヤブマオウにくらいつく、フクラスズメの幼虫は、息を吹きかけたり、大声を出したり、少し葉にふれたりすると、全身をふるわせて、驚ろかせ、楽しませてくれる。これに最初に気付いたのは、子供でした。低いところからの観察点、双眼鏡や虫めがねを使っただけの観察、視野ということを考えたりしました。キジが水平に飛んでいくのを、上から肉眼で見ました。

ナナフシがいました。冬の、雪の上の、あの斜面にモウセンゴケが群生し、ハッチョウトンボがいて、オニヤンマがヤゴから脱皮して、羽をかわかしていました。ジガバチソウやバイカツツジも見て、ササゴイを見に行ったりもしました。

クワガタムシがいたよ。欲しかったけど、放してきたから来年もいるよ。カブトムシの野生のがいるよ。キジがいた所には、コジュケイもいたよ。ガマズミ、カクミノスノキ、イチジク、クリ、カキ、タラ、ワラビ、ゼンマイ、セリ、ナズナ、ヨメナ、ギシギシ、ノビル、ノカンゾウ、トチ、ノブキ、イタドリ、ツクシ……。水もきれいだから、あの魚、唐あげで食べられると思うよ。

アオバハゴロモの幼虫を知っていますか。蛇が、蛇を呑みこむところを見たことがありますか。フィールドをもつということ、継続して観察していくことを大切にして、尾張支部では、毎月野外観察会をしてきました。

5月18日と10月14日には、一般公募の観察会を行いました。日頃の成果が実って、ワンダフルでした。参加者には満足していただけたと自負しているのですが、会員の中から、不満の声が出てきました。

犬山の善師野、継鹿尾ばかりではつまらない。もっと他の所も見たい。何かテーマをしぼって観察したい。結果を何かの形でまとめてみたい。

尾張支部のテーマは、自然の中の食物連鎖としてありました。ある日、突然に決められてしまったようで、また毎月の観察会も、自主参加ではありましたが、半面、義務的なところも感じたりしていたのが、このように成長するのです。自然の中に生きる物を観察し、生き様を見て、きれいだ、かあい、すごいな、というところから、それをみんなにも見て欲しい、記録したい、発表したい、もっともっと多くのものに触れてみたい。ここが、私共のフィールドです。住んでいるところです。国土です。地球です。ここでは、確かな自覚が、着実に進んでいます。

何故、自然観察をするの。そこに自然があるからです。つけ加えると、自然が生きているのが見えるからです。それが見えると、ヒトが生きているのが見えてきます。それが、とても楽しいことだと知ってしまったからです。各人が、目的をもって、より大きく成長しています。尾張支部の活動に期待してください。

(井上久義)

花をもとめて

三ッ石 清 (名古屋市)

・ウコンウツギ (スイカズラ科)----- 7月14日、大雪山国立公園の黒岳 (1984m)、に。1984年の今年はこの山の登山者が多い。黄色の花冠の美しいこの低木には、岩手山で初めて出会った。黒岳7合目辺りの斜面はすべてこの花である。旭岳に続く黒岳のお花畑は、エゾコザクラといった和名にエゾがつく花が華やかに咲いている。

・チシマタンポポ (キク科)----- 鶴舞公園の山草展で見たことがあるので、同行の植物研究家に聞くと、「露助たんぽぽのことでしょう。あんな花に道内に侵入されては困る……。」と、千島列島をとられた北海道人のうらみが感じられた。旅行中、在来種のエゾタンポポを探したが徒労に終わった。

・ミヤコグサ (マメ科)----- 19日、サロマ湖とオホーツク海を分ける25kmにも及ぶ長い砂丘を訪ねる。ワツカ原生花園で、道自然保護員で旧知の老人が、「何故だか、この2~3年ミヤコグサが急にふえてきました。」と連れていかれる。つくづく北の涯を感じさせる海浜草原である。

・ミヤママタタビ (マタタビ科)----- 18日、釧路からアッケシソウで名高い厚岸に向う。車窓から、高い木にたくましくからみついているマタタビを見る。一部の葉の上面が白色なのですぐわかる。淡紅色の葉もまじっている。マタタビと少し違うようだ。ミヤママタタビではないかと教えらる。なお、根室本線のこの区間では、線路にエゾジカが出て来て、急停車が間に合わずひいてしまうと勤務帰りの運転手が話してくれた。

・中間帯 -----26日、環境庁主催の自然公園大会 (気仙沼市大島) に出席。2日目、野外行動隊に参加し、指導員に「暖帯と温帯の境目はどの辺か。」と愚問を出してみた。「この辺りを、私たちは中間帯とよんでいます。」との答。リアス式海岸の美しいこの辺は、前川文夫の「日本の植物区系」によると「えぞ-むつ地域」の南端である。

・シラネアオイ (シラネアオイ科)----- 29日、大町市山岳博物館友の会主催の針ノ木岳登山会にサブリーダーとして行く。一行18名。大雪溪の[・]どの近くで、日本固有種、一科一属一種の、この日本アルプスの名花の群落を見る。針ノ木谷でこの花を見るのが、山行の楽しみの一つだ。今年の

北アルプスは、高山植物が一斉に咲いて、お花畑は例年になく美しい。

〔註〕今までの図鑑では、シラネアオイはキンポウゲ科となっている。しかし、最近ではこれをシラネアオイ科として、独立させて分類する学者がでてきた。（前川文夫、清水建美、本田正次） シラネアオイは、植物区系では、「日本海地域」のトガクシシヨウマ型の代表的な植物である。（前川文夫）

鞍ヶ池公園での合宿と六所山自然観察会

朱雀英八郎（名古屋市）

名古屋市瑞穂青年の家が行っている「自然探究」の講座で、10月27日に豊田市鞍ヶ池公園のロッジにおいて合宿が行われた。

夕食後、講師の三津井先生（松平高校、西三河支部代表）を囲んで、14名の若者等が先生の話に聞き入った。先生は、自分の豊富な体験をもとに、自然、動植物へどう興味を引かせるか、本当に興味をもってくれるのは／万人に／人位だと語る。そして、身近かにある実物を使い、フジバカマとヒヨドリバナを香りで見分けること、オギとススキの違い、きのこを味わいながら有毒なものを見分けることなどを話し、青年たちに発見する喜びを知ってほしいと伝えた。

翌28日は、西三河支部の自然観察会に合流する。10時に豊田市少年の家の駐車場に集合し、他の参加者とともに3班に分れて歩く。六所山の登山道に入ると、大きなズミの木があり、実が落ちている。杉林と自然林との比較、かれんなアケボノソウ、アジサイでもいろいろな種類があることなど観察し、案内の三津井先生から、名前のいわれや、植物に触り、香りをかいだり、味わったりして知ることを学ぶ。そのうち待望のきのこが見つかる。少しづつかけらを味わい、後の班にわかるよう名札をおく。マムシグサの赤い実を味わったことは印象的で、始めは甘い、あと舌がしびれてくる。有毒植物を知る貴重な体験だった。沢を登りつめて、尾根にでると山地性の樹木が多く、名前は知っていても始めて見るものもあり、カラスザンショウ、シロダモ、カゴノキ、ツタウルシ、コシアブラなどを知った。上部に見られるブナは、愛知県では南限であるという。

神社の前で休憩となる。木の上にムササビの巣がある。展望台からは、

はるかに御岳が望め、足元にはカマツカ、イヌブナなどが生えている。

下り道の湿った場所ではきのこが続出し、生でかけらを味わったものが5種類以上、有毒で見ただけのものも3種ある。樹木も実を食べたり、香りで知ったものが20種以上と、心は満腹して帰路についた。

〔お 知 ら せ 〕

◎県自然保護課では、57～59年度に自然観察ガイド「愛知の自然をたずねて」を地域ごとに11冊発行しています。地域の自然をコースごとに解説したものです。多くの会員には、観察会等の折にお渡ししていますが、全員に送付するのは経費不足で困難です。不足分を御希望の方は、送料（キット）を添えて、自然保護課保全担当へ申し込んで下さい。

No. 1 犬山・小牧（在庫切れ） No. 2 豊田周辺 No. 3 豊橋周辺
No. 4 渥美半島 No. 5 新城・南設楽 No. 6 岡崎・額田
No. 7 知多半島 No. 8 春日井・瀬戸 No. 9 西尾・幡豆
No. 10 東加茂地域 No. 11 北設楽地域

（送料：2冊まで 240円、3～4冊 350円、5冊以上 500円）

◎県自然保護課がかって発行した「自然のしくみ（植物）」も在庫がありますので、有効に使っていただける方には必要部数をお送りします。送料は、上記とほぼ同じです。

◎ナショナルトラストの天神崎（和歌山県）では、60年3月に残地を買取ることとなり、そのため今一度の御支援をと呼びかけています。自然の大切さを伝え、自然保護の広がりをお願いしている私たちの協議会としては、こうした活動には積極的に協力することが大切と思われますが、今まで送付した金額は1万円にも満たないわずかなものです。皆様の御理解と御支援をお願いします。協議会の口座（名古屋 9-38820）へ振込むか、各支部の行事の際に幹事さんへお渡しください。

◎協議会では、御承知のように、セミ、カワセミ、シイ・カシの3種の分布調査を行っています。シイ・カシは、今が調査しやすい時期です。皆様の御協力をお願いします。（胸高囲が1.5m以上のシイ・カシのなかまが対象。場所、種類、胸高囲、調査年月日、氏名を事務局へお送りください）

ミノムシのなかま

ぶらぶらしている



オオミノガ----- 紡すい形。葉（全葉のこともある）や枝（長い）をつける。イネ科植物は使わない。40～50mm。ミノは丈夫。



ニトベミノガ----- 紡すい形。小枝や葉を使う。外側に葉片を多くつける。イネ科植物は使わない。40mm。ミノはあまり丈夫でない。



ミノガ----- 茎や葉の細片をこまかくつける。後端はかなりほそくなる。27～37mm。

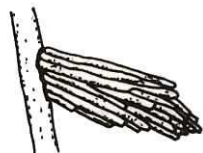


ネグロミノガ----- イネ科植物などの茎や葉を短かく切って縦につける。30mm内外。成虫は10月に出現する。

固定している



シバミノガ----- 全面にシバなどのイネ科植物の葉をつける。紡すい形。23～33mm。



チャミノガ----- 短かい円筒形。長い小枝ですきまなくおおう。サクラ、チャなどを使う。23～40mm。



ヒメミノガ----- 紡すい形で小さい（7～8mm）。マツ葉の細片をつける。

（ミノムシは、ミノガ科のガの幼虫です。成虫は6～7月に出現します。）

（佐藤国彦）

〔 行 事 案 内 〕

| 期 日 | 主 催 | 内 容 | 備 考 |
|--------------|-------|---------------------------|---------------------|
| 59
12.2 | 名古屋支部 | 野外研修会（東谷山） | フルーツパーク
本館 9：30 |
| 12.8
(土) | 協 議 会 | 役 員 会 | 県産業貿易館
本館 2：30 |
| 12.9
(日) | 知多支部 | 野鳥観察会 | 名鉄河和駅
10：00 |
| 12.12
(水) | 名古屋支部 | 例 会（密猟について） | 中小企業センタ
ー 6：30 |
| 12.14
(金) | 知多支部 | 室内懇談会 | 阿久比町公民館
6：00 |
| 12.22
(土) | 協 議 会 | 自然保護を考える会
（河川敷の利用について） | 中小企業センタ
ー （下記） |
| 12.23
(日) | 尾張支部 | 月例観察会（犬山市継鹿尾） | 犬山遊園駅
8：30 |
| 60
1. 6 | 奥三河支部 | 総 会 | |
| 1. 9
(水) | 名古屋支部 | 例 会 | 中小企業センタ
ー 6：30 |
| 1.11
(金) | 知多支部 | 室内懇談会 | 阿久比町公民館
6：00 |
| 1.26
(土) | 協 議 会 | 企画運営委員会 | 中小企業センタ
ー8F 2：30 |
| 2.24
(日) | 協 議 会 | 総会・研修会 | 中小企業センタ
ー7F 1：20 |

※他支部の行事も参加できます。

◎59.12.22 自然保護を考える会 「河川敷の利用について」

問題提起：伏屋光信 於中小企業センター 8階第3会議室
水辺は、自然が豊かな場所であり、自然と親しめる場所です。それをどのように保全し、利用するとよいか、実例をふまえて検討してみます。〔当日集合・申込不要〕

事務局：愛知県農地林務部
自然保護課保全担当